まだまだあります！

神奈川の歴史散歩を満喫する10テーマ

KANAGAWA HISTORY WALK

Theme 1 2万年前の居住遺構も発見された遺跡群

相模原市 Sagamihara

相模川を臨む相模原市は、先史時代の遺跡の宝庫。約3万5000年前の旧石器時代には人が住みつき、相模川流域を中心に多数の土器や石器が発掘されています。当時の人々の営みを想像させる遺構のひとつが「田名向原遺跡（たなむかいはらいせき）」（中央区）。日本では最古の約2万年前（後期旧石器時代）の住居跡です。この地域一帯では、相模川を遡上するサケやアユなどを捕食して暮らしていたのでしょう。ナイフの代わりとなる黒曜石でつくられた石器も発見されています。他にも約5000年前の縄文時代中期の大集落跡「勝坂遺跡」（南区）や、津久井湖上流の史跡「寸沢嵐（すあらし）石器時代遺跡」（緑区）など、都市化が進んだ相模原市ではありますが、状態のよい先史時代の遺跡が残され、先祖の暮らしを肌で感じることができます。

1 豊かな緑や泉がある「史跡勝坂遺跡公園」。2「田名向原遺跡」の住居状遺構はわが国最古の例。3「史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館」【電話】042-777-6371 4 国指定の「寸沢嵐石器時代遺跡」は縄文後期と推定される。5 津久井湖近くにある「川尻石器時代遺跡」（緑区）6 相模原市の歴史や自然を総合的に学べる相模原市立博物館【電話】042-750-8030 7 横浜市にある神奈川県の考古学の殿堂「埋蔵文化財センター」【電話】045-252-8661

写真協力：相模原市、神奈川県埋蔵文化財センター

Theme 2 古代相模国の国分寺跡

海老名市 Ebina

神奈川県央部の海老名駅は、小田急線、相鉄線、JR相模線の3路線が乗り入れるターミナル駅。その海老名駅の東側の台地にあるのが「史跡相模国分寺跡」です。全国に国分寺がつくられるようになったのは8世紀のこと。聖武天皇の勅願で五穀豊穣・国家鎮護のため全国に国分寺と国分寺尼寺が建立されました。

現在の海老名市国分に建てられた相模国分寺は、西に大山・丹沢山地を臨む相模川沿いの台地に位置します。3万平方メートルもの広大な敷地に、金堂と高さ60メートルを超える七重塔が東西に配置されていたとか。平成4（1992）年、海老名駅前の広場には復元された七重塔が建てられ市のシンボルとなっています。実際の1／3サイズにもかかわらず、往時の威容を感じることができます。

1 海老名駅の東側にある「史跡相模国分寺跡」。一部、伽藍の基壇や平面形が復元され、当時の様子が体感可能。2 海老名駅東口に建てられた市のシンボル、1/3のサイズの七重塔。3「海老名市温故館」では国分寺の復元模型のほか郷土史に関する資料も。【電話】046-233-4028 4 現在の国分寺参道入口にある「海老名の大ケヤキ」。樹齢は推定約570年。 5 相模でも最古級の「有鹿（あるか）神社」は相模川に臨む位置に鎮座する海老名の総鎮守。

写真協力：海老名市

Theme 3 県南を走る日本の大動脈・東海道

藤沢市ほか
Fujisawa etc.

関ヶ原の合戦で家康が勝利したことにより、東海道は〝日本の大動脈〟として飛躍的に発展しました。東海道の駅制が確立したのは慶長6（1601）年。神奈川県下には、品川の次の2番目の宿にあたる川崎宿に始まり、神奈川、保土ケ谷（程ヶ谷）、戸塚、藤沢、平塚、大磯、小田原、箱根の9宿が設けられました。

その後に始まる参勤交代などによって通行量が増えると街道筋の整備が進み、世情が安定するにつれ、お伊勢参りなどの庶民の利用も拡大。東海道は一大観光ルートとしても発展します。宿場町として東海道一の規模を誇る小田原宿や、街道最大の難所「箱根の山越え」の不便さを解消するために新設された箱根宿など、各宿場町は現在も県を代表する名物、名産品、観光名所も豊富です。

1 イタリア人写真家のF・ベアトが撮った、松並木が続く東海道（放送大学付属図書館蔵）。ベアトは約20年間、日本各地を記録した。2 元箱根から恩賜箱根公園までの旧街道沿いに約500mの杉並木が。樹齢400年を超える400本の杉が並び、鬱蒼とした雰囲気。3 藤沢にある「藤沢市ふじさわ宿交流館」。藤沢宿の歴史や文化を紹介する。4 藤沢市ふじさわ宿交流館には藤沢宿を再現した模型も展示されている。入館無料。【電話】0466-55-2255

写真協力：箱根町、藤沢市

Theme 4 家康の命でできた全長32キロの用水路

川崎市
Kawasaki

神奈川県と東京都の境を流れる多摩川から取水し、川崎市内を流れる水路が「二ヶ領用水」です。国内でも有数の歴史を誇る灌漑用水で、土日ともなると用水路に沿った道はジョギングする人や散策する人たちで賑わいます。

二ヶ領用水は徳川家康の命を受けた用水奉行・小泉次太夫が慶長4（1599）年から工事に着手し、12年後に完成させました。完成した用水は全長約32キロ。その後400有余年の歴史で、農業と工業の発展に寄与した貴重な水路です。明治時代には水が不足する横浜の飲料水として供給されたこともあり現在は市民が水や自然に親しむ憩いの場を提供しています。用水周辺には貴重な自然も残り、都会の里山のような生田緑地も隣接。ぜひ散策に出かけてみては？

1 二ヶ領用水の上流域は自然環境や景観に配慮した親水地として整備されている。2 広重の「東海道五拾三駅名所 川崎宿大師河原真景」には用水で潤う田んぼも（国立国会図書館蔵）。3 多摩川から取水された水は下流の「久地円筒分水」で4つの堀に分水。4 二ヶ領用水に臨む「日本民家園」（川崎市多摩区）には各地の古民家が。

神奈川の歴史散歩を満喫する10テーマ
KANAGAWA HISTORY WALK

Theme 5 神仏習合の聖なる巡礼スポット・江の島

藤沢市
Fujisawa

北斎や広重など江戸時代の絵師が好んで題材に選んだ「江の島」。絵のように美しい「絵島」が由来との説もあります。

9世紀初頭、古くから島の信仰の要であった洞窟に、空海が岩屋本宮を創建。その後、本宮、上宮、下宮からなる江の島宮が整えられました。江戸から近く、大山詣りとセットにしても数日間の小旅行。娯楽好きの江戸っ子にとっては手軽な巡礼スポットでした。大正、昭和となり、江の島は近代的な行楽地へと変貌します。昭和39（1964）年の東京オリンピックではヨット競技会場に選ばれ、埋め立てが行われるなど島の姿は大きく変わりました。2020年開催の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でもセーリング競技を開催予定。また新しい江の島の姿が見られるかもしれません。

1 島の最奥部にある海蝕洞の岩屋は、空海のほか日蓮上人も修行したといわれる江の島信仰発祥の地。2 奉安殿には「八臂弁財天」などが安置されている。3 全裸で琵琶を抱える日本三大弁財天のひとつ、裸弁財天の「妙音弁財天像」。4 江島神社の辺津宮は、建永元（1206）年に源実朝が創建した。

写真協力：藤沢市

Theme 6 広重も描いた美しき観光地・金沢八景

横浜市
Yokohama

「金沢八景」で知られる横浜市金沢は、横浜郊外の景勝地。京浜急行の特急で横浜駅から金沢八景駅までおよそ20分とアクセスも良好です。鎌倉の東、7キロほどのところに位置し、鎌倉幕府のころには鎌倉の外港（港のない都市付近にあり物資の積み下ろしをする港）の役割を担い、航路の玄関口として賑わいました。

金沢八景の名称は、江戸時代に明の僧侶がこの地の風景を眺め、中国の瀟湘八景（水墨画の画題として有名な8つの名所）になぞらえたことから広まりました。広重が浮世絵に描いたこともあり観光地として人気に。現在は埋め立てのため景観も変わってしまいましたが、浄土式庭園が美しい称名寺や琵琶島を望む風景には、当時の名残もあり、今に伝わる浮世絵と見比べてみるのも一興です。

1 金沢にある柴漁港。穴子丼が名物の漁協直営食堂も。2 野島公園にある伊藤博文の旧別荘。平成21（2009）年に復元された。3 金沢北条氏一門の菩提寺の「称名寺」。美しい境内は市民憩いの場。4 称名寺に隣接する「金沢文庫」。蔵書の内容は政治、文学、歴史など多岐にわたり、鎌倉時代の諸相をうかがうことができる。

写真協力：神奈川県立金沢文庫

Theme 7 文人、政治家たちが愛した別荘地・湘南

大磯町 Oiso

県南中央部、相模湾に臨む大磯町は、年間を通じて過ごしやすい気候とともに美しい砂浜を有したことから、明治18(1885)年、陸軍軍医総監を務めた松本順が日本初の「海水浴場」を開設。以後、大磯は政財界の人々がこぞって別荘を建てる人気保養地となりました。

初代内閣総理大臣・伊藤博文も大磯を深く愛した1人。伊藤以外にも山県有朋(やまがたありとも)や大隈重信、西園寺公望(さいおんじきんもち)、寺内正毅(てらうちまさたけ)、原敬(はらたかし)、加藤高明、吉田茂といった合計8人もの首相経験者が居を構えました。明治・大正・昭和にわたり、大磯は政界の奥座敷ともいうべき様相で、政財界の要人がこぞって別荘を建て続けました。三菱財閥をつくった岩崎家の別荘跡地を整備した神奈川県立大磯城山公園からは、太平洋に臨む広大な景観が楽しめます。

1 三井財閥本家の別荘地であった神奈川県立大磯城山公園の展望台からは、相模湾や富士山などの絶景が。2 吉田茂が暮らした邸宅を復元した旧吉田茂邸。昭和22(1947)年頃に建てられた応接間棟と、昭和30年代に吉田五十八が設計した新館をメインに再建。3 大磯城山公園内に建つ大磯町郷土資料館。「湘南の丘陵と海」がテーマ。4 大磯には300年以上の歴史を誇る日本三大俳諧道場の一つ、鴨立庵も。

写真協力：大磯町

Theme 8 黒船を迎え米国とつながった港・浦賀

横須賀市 Yokosuka

江戸末期の嘉永6(1853)年、アメリカのペリー提督率いる4隻の船が浦賀沖に現れました。開国、明治維新へと至る歴史の大きな転換点となった黒船来航をきっかけに、浦賀は造船の町として生まれ変わります。

江戸幕府がオランダから購入した洋式軍艦「咸臨丸(かんりんまる)」は、日米修好通商条約の批准書を交換するため、勝海舟ら遣米使節団を乗せ、安政7(1860)年に浦賀港を出港し、1カ月半の航海の末にサンフランシスコ港に到着。日本で初めて太平洋横断を成し遂げました。浦賀港の東西に向かい合っているのが叶神社(かのうじんじゃ)。ここで勝海舟が咸臨丸での太平洋横断前に断食をしたとも伝えられています。一行が無事に使命を完遂できたのは、この勝の願かけのおかげだったのかもしれません。

1 毎年4月末に行われる「咸臨丸フェスティバル」では史跡案内など各種イベントも開催。2 久里浜のペリー公園にあるペリー提督胸像。3 世界的にも貴重なレンガ製ドライドックの浦賀ドック跡地。1世紀以上にわたり約1000隻もの船をつくった。4 東叶神社の裏山は明神山と呼ばれ、保全された自然林が残る。

写真協力：横須賀市

神奈川の歴史散歩を満喫する10テーマ
KANAGAWA HISTORY WALK

Theme 9 のどかな漁村から国際港へと急発展！

横浜市 Yokohama

安政6(1859)年に横浜は開港、貿易が始まり、居留地がつくられました。幕府は急ピッチで街づくりを進め、江戸日本橋の三井呉服店をはじめとする商人を全国から集め、翌万延元(1860)年にはその数が200軒超に。外国人も居留地に次々と店を開き、ホテルやビール工場なども建てられました。開港から数年後にはほぼ街並みが完成したというから驚きです。やがて外国人たちも増え居留地は手狭に。西の山手にも居留地がつくられ、最初の居留地には中華街が形成されていきます。明治5(1872)年、新橋と横浜を結ぶ日本最初の鉄道も開通し、横浜はさらに発展していきます。

開港から150年以上が経ちましたが、港町横浜には、当時の歴史を偲ぶ遺産が数多く伝わり、見どころが尽きません。

1 開港間もない横浜の本町通りを描いた五雲亭貞秀作「神名川横浜新開港図」(国立国会図書館蔵)。三井呉服店の紋も。2 明治5(1872)年、横浜駅(現・桜木町駅)と新橋駅(旧・汐留駅)を結び鉄道が開通。入江を横切る埋立地が写されている。3 居留地にあったグランドホテルは明治6(1873)年創業。現在あるホテルニューグランドとは別。4 新たにつくられた山手居留地。5 山手では7つの洋館が復元され一般に無料公開されている。

写真協力：横浜市、神奈川県立歴史博物館（2、3、4）

Theme 10 こんなにある横浜発祥の西欧・近代文化

横浜市 Yokohama

文明開化の波を受け、西洋から洗練された文化や技術が伝来した港町横浜には、数多くの「発祥の地」があります。駆け足で紹介していきましょう。

日本初のパン店は横浜。内海兵吉が仏軍のコックから教わりパンを焼き始めたのは開港の翌年の万延元(1860)年のことでした。文久2(1862)年には最初のレストランができ、2年後にはカフェも開店。氷を輸入してアイスクリーム店も慶応元(1865年)年に開業しました。同じく明治2(1869)年には、山手居留地にビール醸造所がつくられ国産初のビールが誕生します。

日本初の病院や西洋式床屋、日刊新聞の発行、石鹸の製造も横浜発祥。中区を中心に各所にモニュメントや案内板があるので街歩きしながら探してみては？

1 明治10年代に設営されたレンガの下水管。一定の流速を保つために卵形に。2 設置当時の日本初の型をモデルに復元されたガス灯。3 山下公園内に立つ「ZANGIRI」とタイトルされた西洋理髪発祥之地を記す像。4 日本のパンづくりの祖、内海兵吉がつくった富田屋があったところに設置された「近代のパン発祥の地」碑。